

第2学年4組 国語科指導案

第5時限 2の4教室

指導者 霊池 知里

1 単元名 扇の的一「平家物語」から

2 単元目標

- (1) 登場人物の心情についての考えをすすんで話し合おうとする。 (関心・意欲・態度)
- (2) 「平家物語」特有のリズムに慣れ、特徴をつかんで朗読することができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
- (3) 場面の状況を読み取り、その場に置かれた人物の心情を考えることができる。 (読むこと)

3 単元について

「平家物語」は、平家一門の繁栄から滅亡までを描いている。貴族社会から武家政権へと変化する動乱の時代を背景としており、多彩な人物像も描かれている。琵琶法師たちが芸能として語っていた「平曲」として人々に享受されていたものであるため、文字を媒介としなくても理解でき、耳で聴いておもしろく感じる音楽的な効果のある文体となっている。教科書で取り上げられている「扇の的一」の場面は、命を懸けた合戦の最前線ではほんのひととき行われた余興とも言える。貴族の風情を多くもつ平氏と、武士集団である源氏との思いの違いや、それぞれ追い詰められた心情など、言葉や行動に対して二通りの様子がうかがえる。臨場感あふれる音楽的な文体と装束描写などの映像を見るような表現が魅力的であり、立場や生き様、価値観の異なる様々な人物を際立たせている。これらのことから「平家物語」は合戦の場面を通し、当時の武士の考え方や価値観を知ること、個人の立場や事情を踏まえた心情把握ができる教材であると言える。また、現代文における物語文や説明文とは、言い回しや表現方法が異なるため、それらとは異なる視点で学ぶことができ、また、多くの生徒が同一のスタートをきることのできる教材であるとも言える。

生徒の姿としては、学校生活や学級内で意欲的に活動できている生徒が多い。しかし、その中に意欲はあるのだが、なかなか行動に結びつきにくい生徒もいる。普通の授業でも、教師や友達の話はすすんで聞けるのだが、その言葉や考えを受けてさらにその次の思考や活動に入れる生徒と、話を聞いたことで満足感をもち、そのままになってしまう生徒に分かれることが多い。また、一斉に活動しても、活動内容や活動時間に大きな差が出ることもある。場面の様子など、言葉に着目して読み取れる生徒もいるが、なかなか見当がつけられない生徒もいるのが現状である。また、みんなの前で自分の意見を述べることは、苦手とする生徒が多い。しかし、グループ活動では互いに意見を述べ合う姿を多く見ることができる。古典の学習について、苦手と感じている生徒が多い。その理由のほとんどが歴史的仮名遣いによる文章の読みづらさと、現代とは違う歴史的背景の捉えにくさがあるようだ。

これらのことから、授業では音読の時間を必ず設け、何度も音読することで古文の文章に読み慣れることを大切にしていきたい。また、歴史的背景や場面の状況を的確に捉えないことには、適切な心情の読み取りにつながらないため、時代背景の助言も行っていきながら、登場人物の人物像や人間関係、場面の状況の把握を丁寧に行っていく。古典を苦手と感じている生徒たちのわからなさをできる限り取り除いたうえで、登場人物の心情に迫りながら、昔の人の心に触れていきたい。心情を読み取る際には、まず一人で課題について考える時間をとったあと、少人数のグループによる相談・確認の時間をとることで、生徒たちが主体的に学習する場となり、意欲化につながるだろう。グループ活動で様々な考えに触れさせることで自分の考えを深めさせたい。考えが深まるよう、グループ活動の際には、「共通の視点」や「グループへの課題」を与えていく。

4 単元構想図（全7時間）

学 習 活 動	手 だ て
<p data-bbox="188 257 609 286">「平家物語」はどんな話なのだろう①</p> <ul data-bbox="188 304 810 427" style="list-style-type: none"> ・平氏一族の繁栄から滅亡までのお話なんだね。 ・文字よりも歌（平曲）で広まったんだね。 ・歌で広まったということは言葉がわかりやすいのかな。 <p data-bbox="188 448 507 477">どんな時代だったのだろう②</p> <ul data-bbox="188 495 959 573" style="list-style-type: none"> ・平家は戦いに負けてどんどん西に行ったんだね。 ・場面がなんとなくイメージできたよ。この距離を射るのは難しいな。 <p data-bbox="188 593 485 622">「扇の的」の疑問をもつ③</p> <ul data-bbox="188 640 959 763" style="list-style-type: none"> ・なぜ断った与一に義経は射させたのか。 ・舞を舞うことで射られるということを考えていなかったのだろうか。 ・人を射て、なぜ褒めるのか。 <p data-bbox="188 784 560 813">「扇の的」の疑問を解決しよう④</p> <ul data-bbox="188 831 1046 1003" style="list-style-type: none"> ・義経は自信があったから、射させたのではないかな。この難しい状況で射ることができれば、源氏の力を示すことにもなるね。 ・舞を舞ってしまったら、射られても仕方ないと思う。扇と同じ場所に出きたら、射られることを考えないといけないと思うな。 <p data-bbox="188 1023 879 1052">「あ、射たり」側と「情けなし」側、どちらに共感しますか⑤</p> <ul data-bbox="188 1070 1082 1485" style="list-style-type: none"> ・扇と同じように、遠くの的を射ることは難しいから、人を射たのであっても称賛したのではないかな。扇の的と男と2回命中させているから、やっぱりすごいと思うな。 ・「心ない」に賛成。人と扇は違うから、的にしてはいけないと思う。今は戦いのときではないから、人を射るのは心ない行動だと思う。 ・武士は戦いで勝利を収めて地位を築いてきた。だからこそ、男が出てきたときには、射るしかないし、それが当たることは称賛に値すると思う。 ・戦いではないと言っても、平家と源氏は争っている最中。敵である平家の人なら、射抜いてもよいのでは。 <p data-bbox="188 1505 738 1534">義経はなぜ弓を命懸けで拾ったのだろう⑥（本時）</p> <ul data-bbox="188 1552 1058 1778" style="list-style-type: none"> ・「取らばこそ」とはどんな意味かな。 ・嘲笑されるのが嫌だったと書いてあるね。なぜ嘲笑されるの。 ・「口惜しければ、命にかへて～」と書いてあるから、弓を拾った理由は「口惜しい」ではないかな。「口惜しい」の意味はなんだろう。 ・義経は自分の名誉のために拾ったのかな。それでみんなは感心するのかな。 <p data-bbox="188 1798 954 1827">現代と今はどんなところが似ていて、どんなところが違うのだろう⑦</p> <ul data-bbox="188 1845 616 1924" style="list-style-type: none"> ・味方を信じる気持ちは今と同じだね。 ・命令は絶対なところは違うね。 	<p data-bbox="1107 257 1137 358" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">音読活動</p> <ul data-bbox="1198 257 1449 1935" style="list-style-type: none"> ・古典に対する興味を喚起するために、地図やCDなどの視聴覚資料を用いる。 ・生徒の疑問を課題とし、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・グループごとに級友の疑問を担当し、グループで話し合わせ、解決に向かわせる。 ・他グループにグループの意見を発表させる場の設定により、より説得力のある答えにさせる。（根拠を明確にさせる。） ・場面の様子や状況をより詳しく把握するために便覧などの資料も参考にする。 ・時代背景や登場人物について必要があれば補足する。 ・具体的な場面が想像できるように写真や地図などの資料も提示していく。 ・本文を読み解くヒントを準備しておくことで、生徒が主体的に問題解決する姿を目指したい。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・場面の様子や登場人物の心情について、すすんで話し合おうとする。 (関心・意欲・態度)
- ・場面の様子を読み取り、登場人物の心情に迫ることができる。 (読むこと)

(2) 過程

生徒の活動	指導上の留意点
1 前時までの学習内容や時代背景を確認する <ul style="list-style-type: none"> ・「扇の的」は「平家物語」の一部分だったよ。 ・平家と源氏は貴族と武士だったね。 ・大将の死が戦の勝ち負けに大きく関わるね。 2 学習課題をつかむ	<ul style="list-style-type: none"> ・内容確認と古典独特のリズムに慣れさせるため、音読を行う。 ・写真を使って前時までの学習を想起させ、全員を本時の土台にのせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 義経はなぜ命懸けで弓を拾ったのだろう </div>	
<ul style="list-style-type: none"> ・今度は義経の話だね。弓を命懸けで拾ったのはすごいね。 3 課題について自分の考えをもつ <ul style="list-style-type: none"> ・大事な弓だったのかな。 ・残りの弓が少なかったのかな。 4 グループで古文から理由を探す <ul style="list-style-type: none"> ・「取らばこそ」とはどんな意味かな。 ・嘲笑されるのが嫌だったと書いてあるね。なぜ嘲笑されるの。 ・「口惜しければ、命にかへて～」と書いてあるから、弓を拾った理由は「口惜しい」ではないかな。「口惜しい」の意味はなんだろう。 5 各班の意見をクラス全体で伝え合う <ul style="list-style-type: none"> ・1班は、弱々しい弓を敵に拾われ、笑われることを避けるために拾ったと思います。 ・4班は、義経の弓が叔父のものに比べ、弱いからだと思います。大将に弱いイメージがつかないようにするためだと思います。 ・6班は、大将が弱い弓を使っているのは、源氏の恥だと考えたから命懸けで拾ったのだと思います。 6 本時の学習を振り返る <ul style="list-style-type: none"> ・義経が必死になった理由がわかったよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書P138の6行目までの本文を黒板に貼り、場面を把握させるとともに、課題につながる「その理由」に注目させる。 ・課題の答えに興味をもたせるため、自分の予想を立てさせる。 ・古文の部分(7行目～12行目)を黒板に掲示し、この中に答えが書かれていることを伝えることで、本文に注目させる。 ・ヒントカードを各班3枚用意し、古文の中の語句の意味がわからないときに使うよう伝える。どの言葉の意味がわかれば、答えを導き出すことができるか考えさせるため、3枚と枚数を限定する。 ・各班の答えを全員に伝わりやすくするため、各班に画用紙とペンを用意し、答えを書かせ、その画用紙を使い、発表させる。 ・「源氏の恥」「名誉」など源氏全体のことを考えた義経の行動であることにたどり着いていない場合は、「なぜ感動したのか。」と補助発問を入れ、考えを深めさせる。 ・時間があれば、振り返りを発表させ、本時の学習内容をクラス全体に共有させる。

(3) 評価

- ・すすんで話し合う姿勢が見られたか、グループ活動時の様子やノートの記事から判断する。 (関心・意欲・態度)
- ・場面の様子や登場人物の心情を読み取れたか、ノートの記述や発言から判断する。 (読むこと)